

読書

ナチ親衛隊(SS)「政治的エリート」

たちの歴史と犯罪 バスティアン・ハイン 著 若林美佐知 著訳

殺戮の執行組織 最新研究で追跡



中公新書・1000円

74年生まれ。バイエルン州教育文化省政治教育活動・記憶文化局専任係官。ドイツ現代史家

ナチス・ドイツのユダヤ人迫害、強制移住・移送と約600万人殺害の執行組織は、ヒムラー率いる親衛隊(SS)だった。しかし、すでに1934年、約40万人に膨張していたSSのどの機関によって、いつから、どのように実行されたのか。この問題群には戦後70年の長い研究

史があり、実証的論争点を多く含み、史料・文献も多い。本書は一般SSについて大学教授資格論文『民族と総統のためのエリート?』を上梓した著者が、「ヒムラーの戦士」武装SS(最終的に80万人)も含め、支配下の全国の警察機構、強制収容所群、人種・植民本部など

を総合的に最新の研究到達点に立って追跡したものである。

SSは民族主義理念で左派と闘う突撃隊(SA)の中にヒトラー身边護衛の役目を担う「衝撃隊」として誕生した。「目立たぬ発足」から「総統への忠誠」を核に急成長を遂げた。ドイツ警察長官の座を得た全国指導者ヒムラーは全警察機構を支配下に置いて「警察との融合」を目指し、開戦までに秩序警察幹部約20%、保安警察幹部50%以上を達成。「ナチ国家防衛の使命」のため「政敵弾圧」と「民族防衛」に邁進する。

「ロシアとその周辺」をアリア人種ゲルマン民族の「生存圏」とみなし人種主義的帝国主義戦争を発動したヒトラーのもと、SSは広大な征服地の迅速な治安秩序確立、抵抗鎮圧とユダヤ人殺戮の実行主体となる。真珠湾攻撃・対米宣戦布告、文字通りの世界戦争への突入で国家保安本部長官ハイドリヒをはじめSS・警察機構は苛烈さを増す。確信的SSアイヒマンは中間管理職として活躍する。戦後諸裁判の不徹底性をめぐる諸問題を最後に簡潔に整理し、SS犯罪総体の俯瞰を通じて「都合のよすぎるスケープゴート」化に辛辣。すでに学術雑誌で高い評価を得た本書の邦訳は原書にはない丁寧な小見出しと注記、解題(多健介)も合わせて、優れた啓蒙書となっている。